

会長就任のご挨拶

2025年5月28日



(一社) 日本伸銅協会 会長 小林敬一
(古河電気工業株式会社 取締役会長)

この度、会員各社のご推挙により、日本伸銅協会の会長に就任することとなりました古河電工の小林でございます。本協会は、皆様のご支援により今日の発展をみております。心より厚く御礼申し上げます。その礎のもと、私は伸銅協会に関わる皆さまと「チーム」を築き、共に歩み、より発展して参りたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、米国による関税政策によって、世界経済が混迷を極め、我が国経済への影響も今後具体的になってくるのではと思っておりますが、大山副会長、釣谷副会長、田口副会長と共に、会員の皆様のため、そして協会や伸銅業界の発展のために尽力する所存であります。

さて、2024 年度における我が国経済を振り返りますと、賃上げの継続から個人消費が回復基調を維持しているほか、省力化・脱炭素対応等の持続的な投資需要と国内生産拠点強化のための設備投資が増加し、賃上げと投資が牽引する「成長型経済」への移行が緩やかに進んでいるように見られますが、一方で海外経済の減速を受けた輸出が伸び悩むといったマイナス面も併存しており、十分な回復には至っていません。

そのような環境の下、私ども伸銅業につきましては、半導体調整の長期化、自動車の国内外減速、住宅着工の長期停滞と人手不足による建築・建設での工期遅延やキャンセルなどの影響を受けました。この結果、伸銅品生産量は 64 万 1 千トンで対前年度比 +0.5% となり、2023 年度を僅かに上回りましたが、2020 年度のコロナ期の 65 万 6 千トンを上回るまでには至りませんでした。

品種別に見ますと、「板条製品」に関しましては、自動車分野が年前半の認証不正問題による国内減産や、足元で続く中国、ASEAN での日系車販売不振に見舞われながらも、世界的な完成車販売回復から一定量を維持しました。また、半導体分野は、中国での情報・生活家電の販売不振長期化から、回復予想も先送りとなり現在に至っています。

「黄銅棒」につきましては、新規住宅着工の低迷長期化と物件の工期遅延が重なったことから、住宅設備機器向け需要分野では目立った回復が見られませんでした。また「銅管」につきましても、ルームエアコン需要は、夏の猛暑と冬場の低温からエアコン在庫が減少して、下期から回復が続いていますが、パッケージエアコンは、時短や人手不足問題による物件の工期遅延や計画キャンセルなどから十分に回復していない状況です。

しかし、今年は自動車需要が地域で差があるものの全体で好転し、半導体はデータセンターや AI 搭載機の需要がけん引し、復調してきています。一方、建築建設関係では、決して市況は改善しておりませんが、生産量は確保されているので、サプライチェーンでの在庫が軽減してきたと推察しています。このような状況を踏まえ、2025 年度は対前年比で 5.6% のプラス成長を見込んでいますが、冒頭にも触れました通り、米国のトランプ関税がどの程度影響するのか、大変危惧されるところです。

このような状況下ですが、日本伸銅協会では、今年度も会員企業の事業活動に有益となる調査の実施や情報提供を行います。特に、未利用の銅リサイクル材料の活用に向けた技術的検討、工場の安定操業に資する設備保全の情報共有や労働安全衛生活動の活性化に注力していきたいと考えています。また、「伸銅品」の認知度を上げる活動も継続いたします。

その他、エネルギー・電気料金、人件費や原料対策などにも引き続き取り組んでまいります。そして、日本伸銅協会として積極的に情報収集・発信を行っていくとともに、必要な場合には、政府への申し入れを行うことも検討していきたいと思えます。

こうしてみますと、我々伸銅業には足元の問題と共に、中期的な課題も多く、それらに一つ一つ取り組んでゆかねばなりません。引き続き厳しい環境下ではありますが、会員相互の信頼関係を大切にしつつ、伸銅業界の社会的役割を果たしてまいりたい所存です。

関係各位のご指導とご支援をお願い申し上げまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

最後に、私たちが直面する課題は多いですが、協会のバリューを明確にし、個社の力だけでなく、チームとして協力し合うことで、これらの課題を乗り越えていきましょう。そして、「伸銅品の未来」を描くためのアイデアが浮かんだら、ぜひ教えてください！皆さんと共に、明るい未来を築いていくことを心から楽しみにしています。